

“豊かな海を育む” 美保関協議会の設立について

松江市美保関町は日本海、中海に囲まれ、古くから漁業が生業として行われている。しかしながら、近年の地球温暖化による気候変動や周辺海域の生態系の変化により、周辺海域での漁獲量の減少や良質の藻場が減少する“磯焼け”が進行しているため、これまで本市では水産資源・藻場の回復を図ることを目的として、漁業者と一体となった藻場再生・造成や資源管理への取り組みを行っている。

また、2021年10月に閣議決定された「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」の中で、2050年カーボンニュートラル（脱炭素）の実現に向けた国の基本的な考え方が示されており、カーボンニュートラル達成のためには、企業等がどうしてもゼロにできない排出量を他者によるCO₂の削減・吸収によって埋め合わせて（＝カーボン・オフセット）調整することが可能となった。

そのような状況の中、近年の研究で、海洋生態系によって吸収・貯蓄される炭素（ブルーカーボン）も重要であることが示された。本市が取り組んでいる藻場再生・造成活動についても、カーボンニュートラル達成に向けた期待が寄せられている。

そこで、“豊かな海を育む”美保関協議会を設立して、各団体が独自に取り組んできた水域資源の保全・活用の情報共有化を図り

- (1) 気候変動対策を目的としたワカメ養殖活動
- (2) 藻場（漁場）の再生
- (3) 地域の小学生等を対象とした環境学習
- (4) 観光資源の活用
- (5) J-ブルークレジット®の取得と活用に向けた活動

に取り組み、水産物の付加価値向上、地元への愛着・誇りの醸成について関係機関が協働で実施することで、「水域資源の保全・活用の両立による経済循環」が確立されることはもとより、J-ブルークレジットの獲得など多面的効果を追求する。

これらの取組は、本市の総合計画（MATSUE DREAMS 2030）に掲げている「松江産の食材がスーパーに増えた」及び「日本が誇る『環境主都まつえ』」の達成に向けて不可欠で、本協議会設立の意義がここにある。

